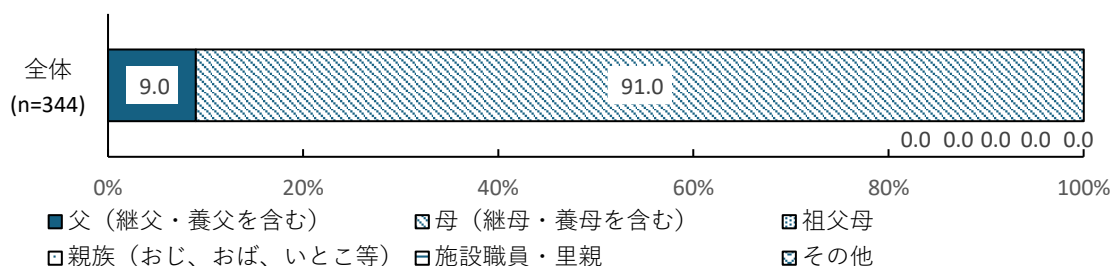


3-3. 子どもの生活実態調査(小5・中2相当年齢の児童の保護者)

(1) 回答者の属性について

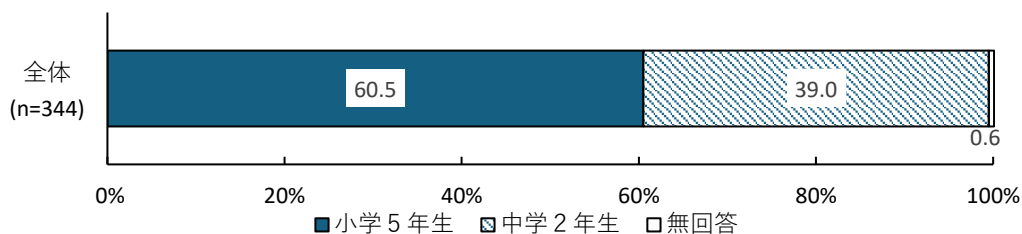
- ① 回答者の子ども(小学5年生・中学2年生)からみた立場は、「母」が 91.0%、「父」が 9.0%であった。【問1】

図表 子どもから見た回答者の続柄(小5・中2相当年齢の児童の保護者)【単数回答】



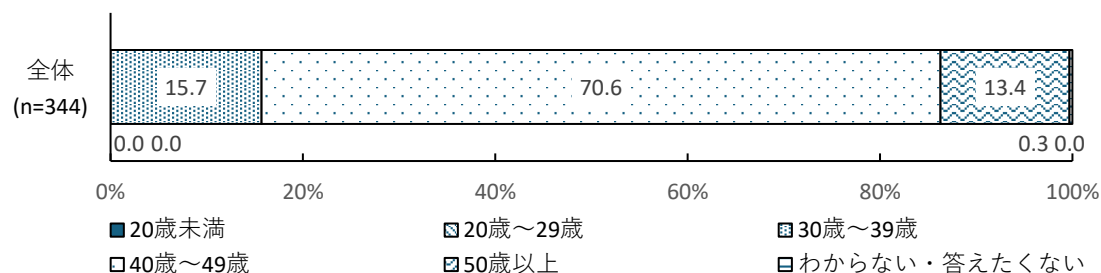
- ② 回答者の子どもの学年は、「小学5年生」が 60.5%、「中学2年生」が 39.0%、無回答が 0.6%であった。【整理番号より】

図表 回答者の子どもの学年(小5・中2相当年齢の児童の保護者)【単数回答】



- ③ 回答者の年齢は、「40代」が 70.6%と最も多く、次いで「30代」が 15.7%、「50歳以上」が 13.4%となっている。【問3(1)】

図表 回答者の年齢(小5・中2相当年齢の児童の保護者)【単数回答】

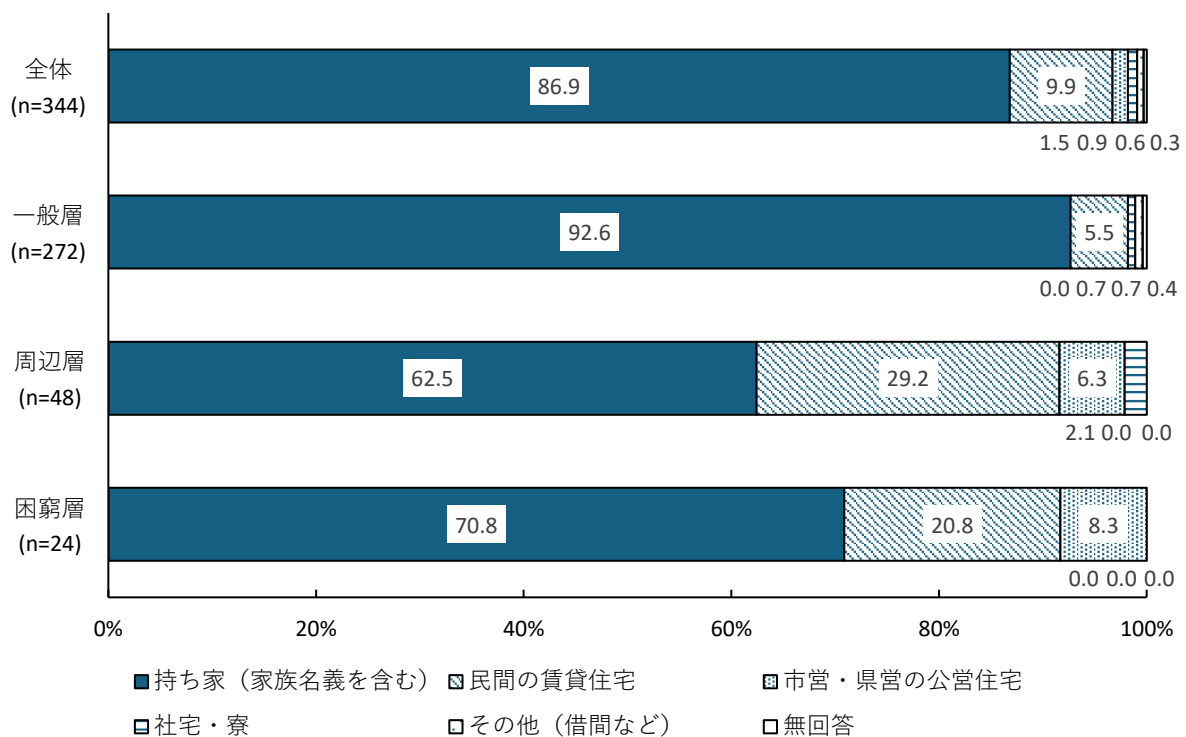


(2)就労・生活の状況等について

- ① 住んでいる住居は、いずれの世帯でも「持ち家(家族名義を含む)」が最も多くなっている。生活困難度別にみると、「周辺層」及び「困窮層」の世帯では「一般層」の世帯と比較して、「民間の賃貸住宅」、「市営・県営の公営住宅」の割合が高くなっている。

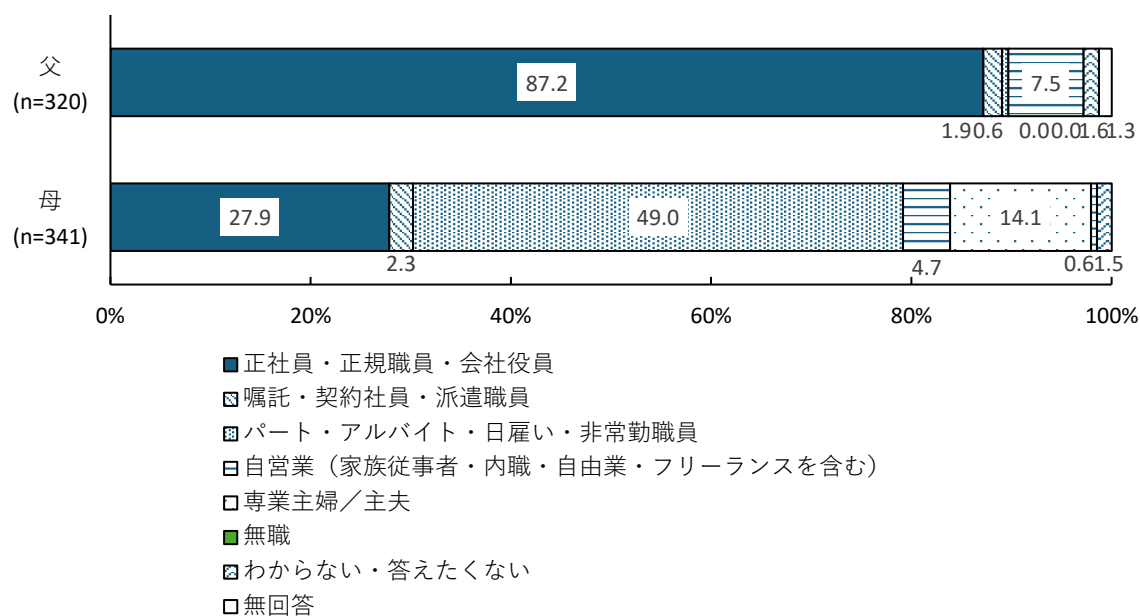
【問9】

図表 住居の種類(小5・中2相当年齢の児童の保護者)【単数回答】



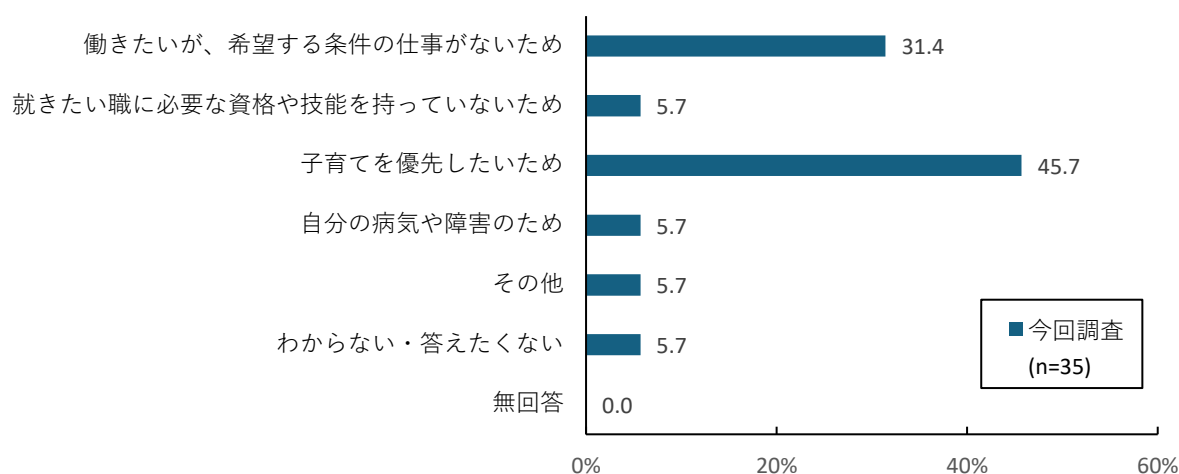
- ② 父の就労状況については、「正社員・正規職員・会社役員」が 87.2%と最も多く、母の就労状況については、「パート・アルバイト・日雇い・非常勤職員」が 49.0%と最も多くなっている。【問1,問2,問11,問 13 より算出】

図表 就労状況(小5・中2相当年齢の児童の保護者)【単数回答】



- ③ 母が就労していない理由については、「子育てを優先したいため」が 45.7%と最も多くなっている。

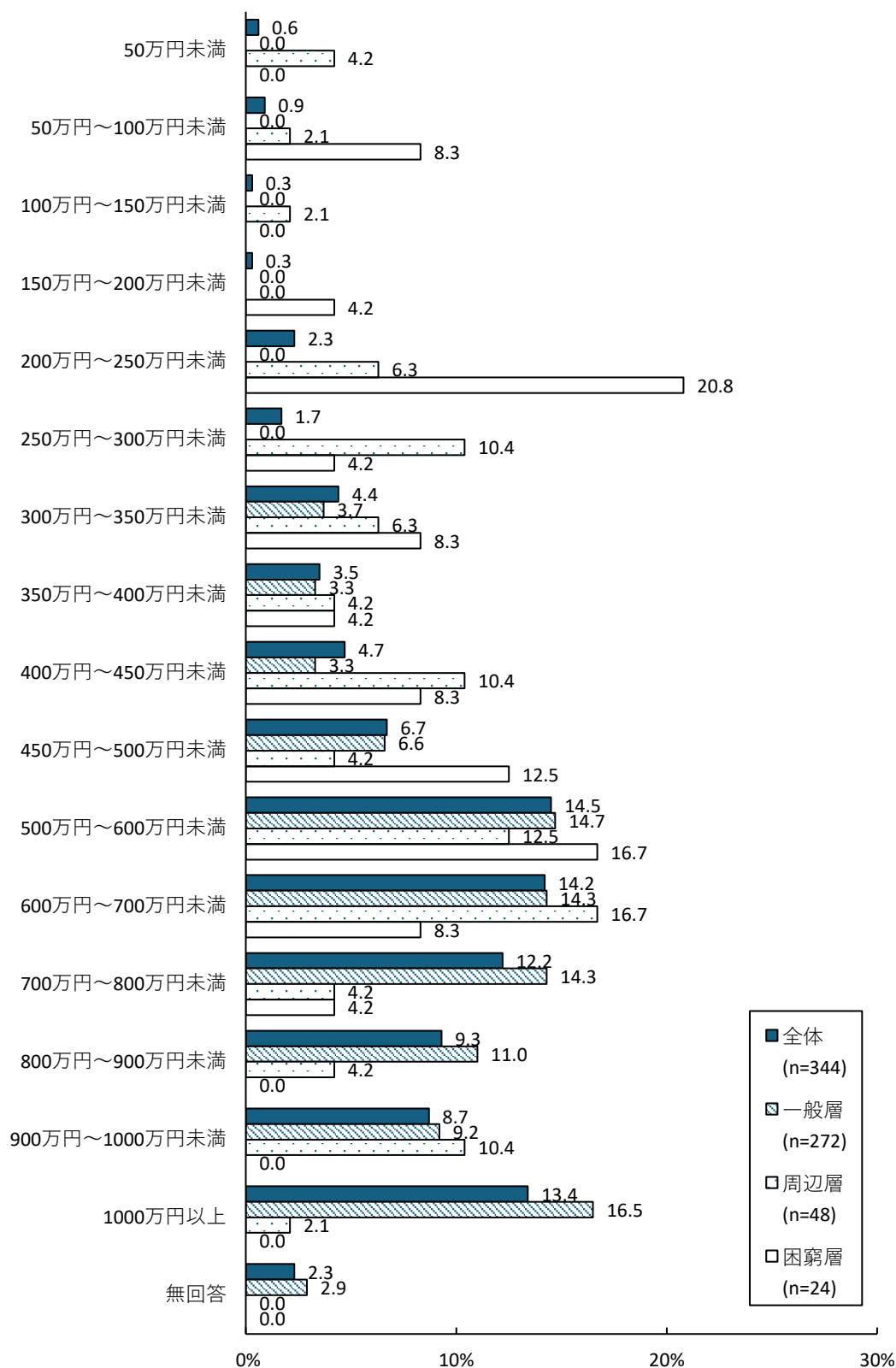
図表 母親の就労していない理由(小5・中2相当年齢の児童の保護者)【単数回答】



- ④ 世帯のおおよその年間収入については、全体では「500万円～600万円未満」が最も多く、次いで「600万円～700万円未満」、「1,000万円以上」の順であった。

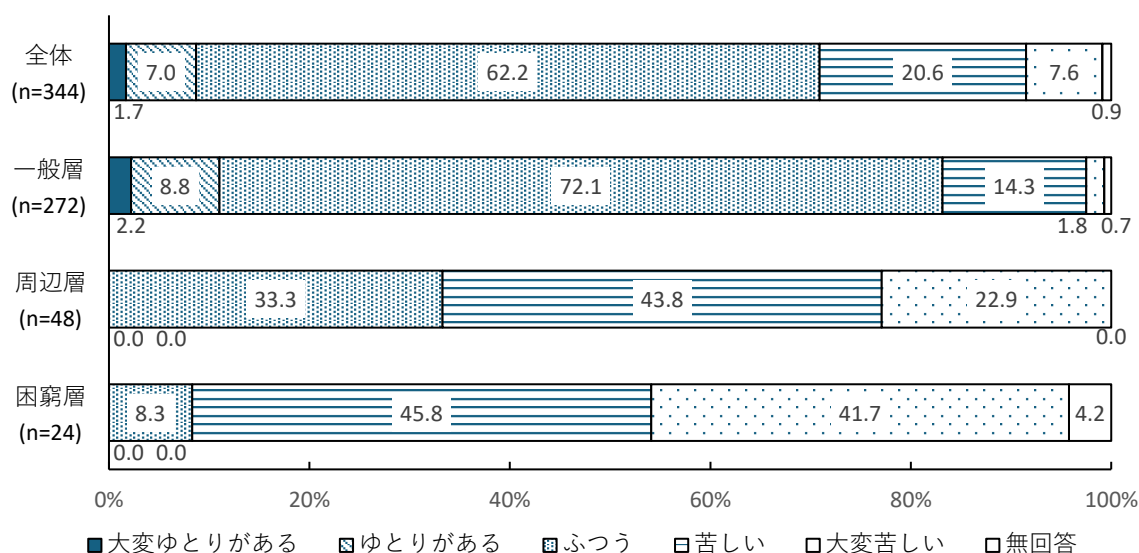
【問30】

図表 世帯のおおよその年間収入(小5・中2相当年齢の児童の保護者)【単数回答】



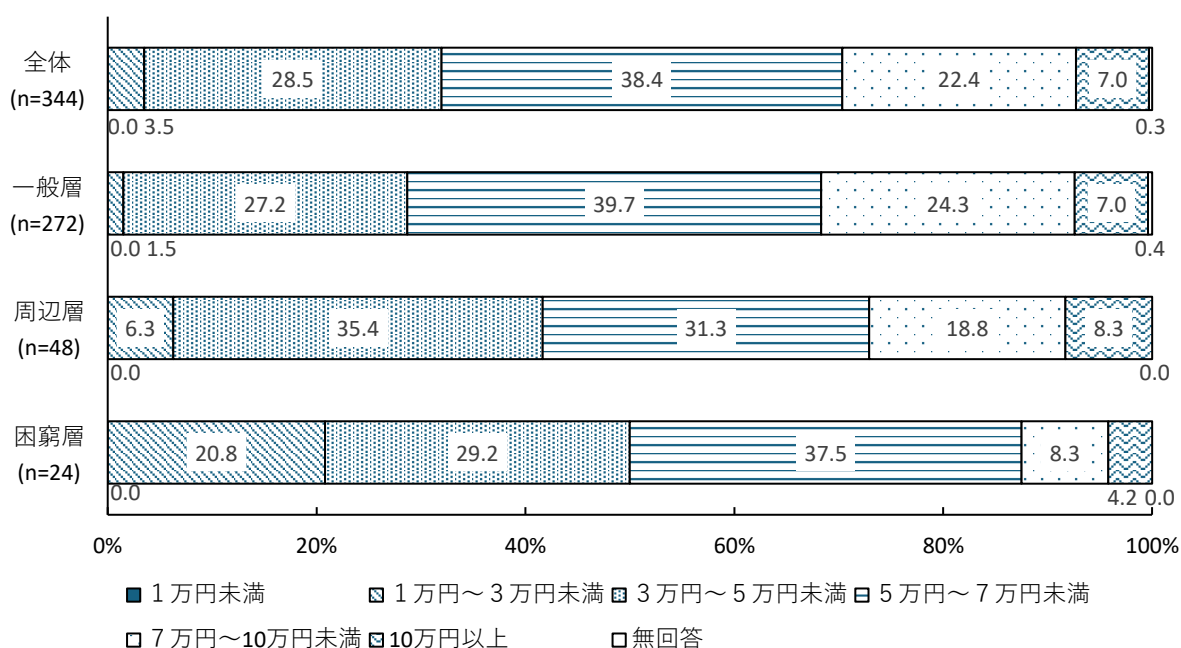
- ⑤ 現在の暮らしの状況をどう感じているかは、全体では「ふつう」が62.2%と最も多く、次いで「苦しい」が20.6%、「大変苦しい」が7.6%、「ゆとりがある」が7.0%であった。【問31】

図表 現在の暮らし向き(小5・中2相当年齢の児童の保護者)【単数回答】



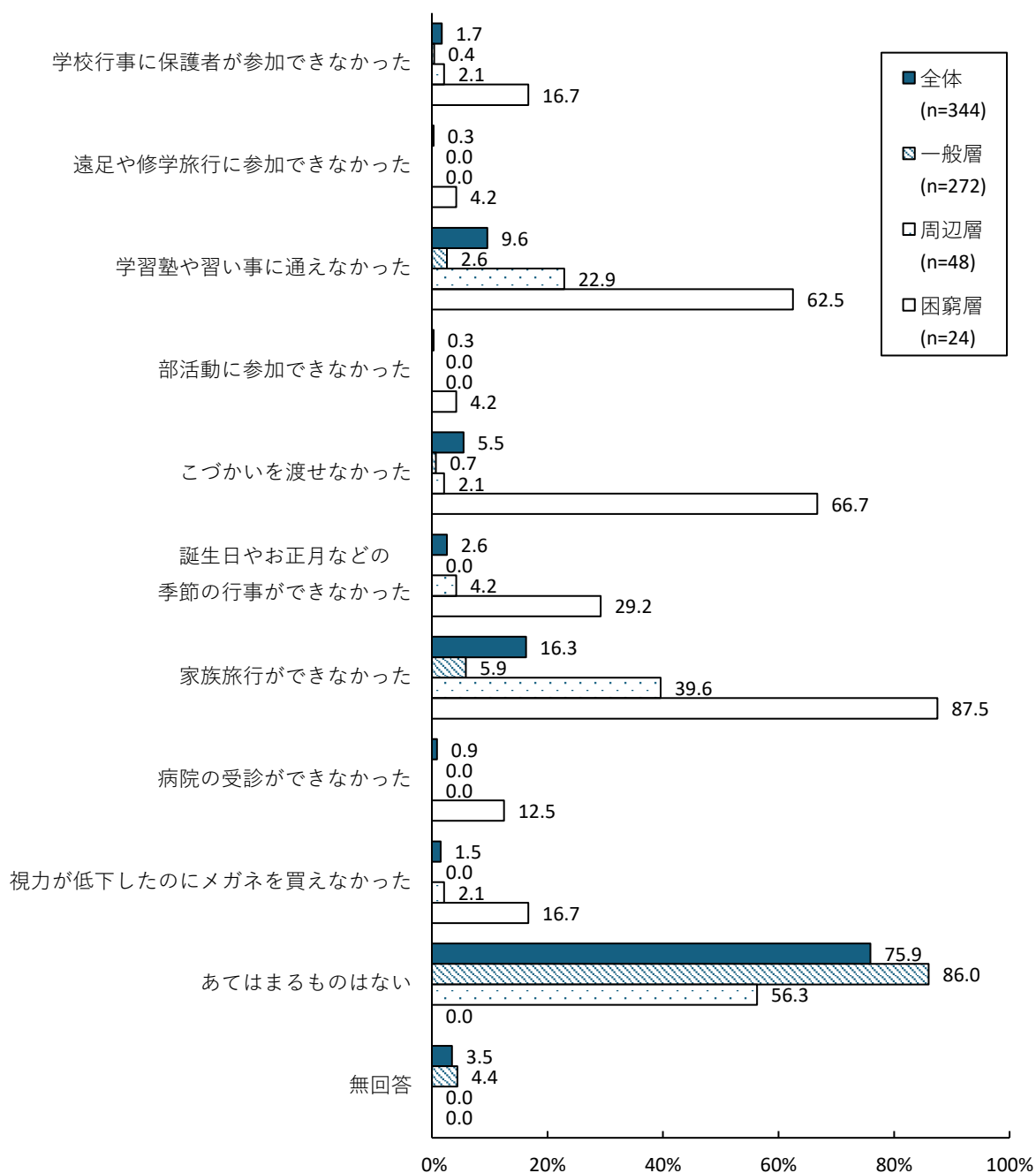
- ⑥ 1か月のおおよその食費は、全体では、「5万円～7万円未満」が38.4%と最も多く、次いで「3万円～5万円未満」が28.5%、「7万円～10万円未満」が22.4%となっている。生活困難度別にみると、「周辺層」及び「困窮層」の世帯は、「一般層」の世帯と比較して金額が低い傾向にある。【問29】

図表 1か月の食費(小5・中2相当年齢の児童の保護者)【単数回答】



- ⑦ 経済的な理由で子どもが希望することができなかったことがあるかとの問いに対しては、全体で「あてはまるものはない」が最も多く 75.9%であった一方、「家族旅行ができなかった」が 16.3%、「学習塾や習い事に通えなかった」が 9.6%であった。生活困難度別にみると、できなかったものへの回答率は、「周辺層」及び「困窮層」の世帯が高い傾向にある。【問33】

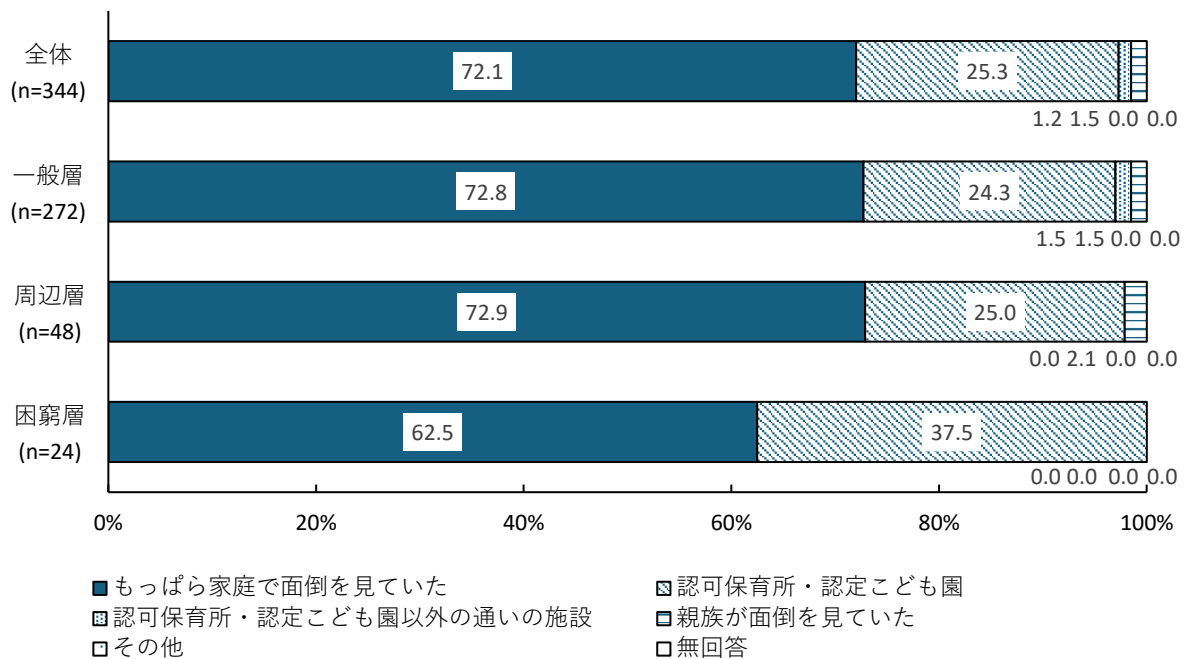
図表 経済的な理由で子どもが希望することでできなかったこと
(小5・中2相当年齢の児童の保護者)【複数回答】



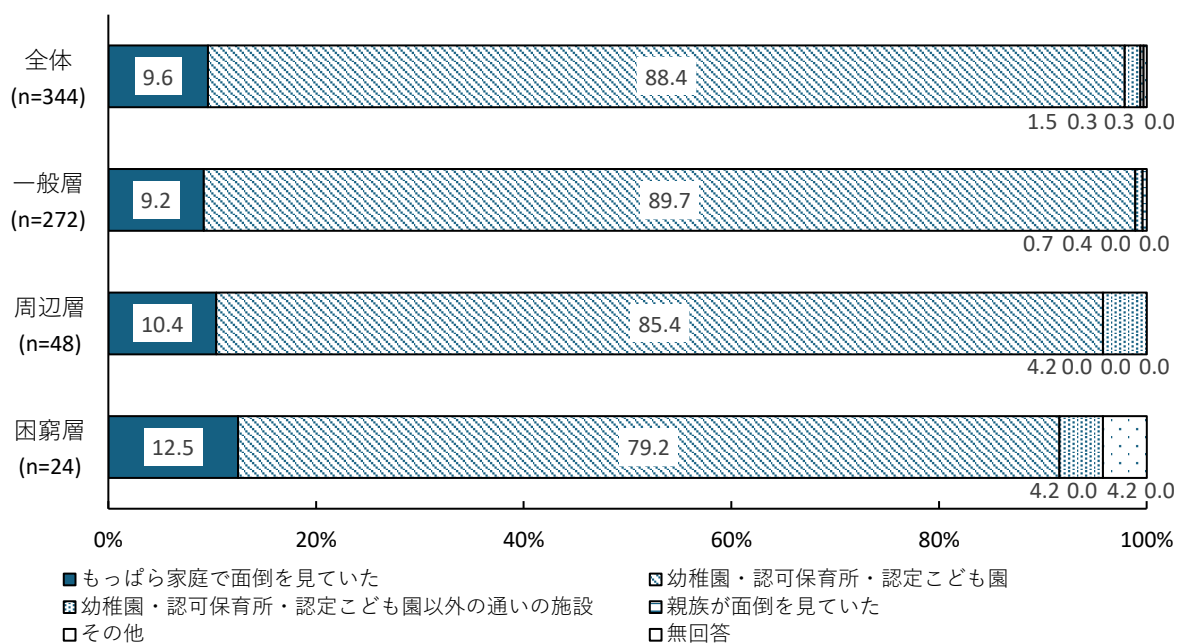
(3)子どもの教育等について

- ① 育児の状況について、いずれの生活困難度でも0歳から2歳のときは「もっぱら家庭で面倒を見ていた」が最も多く、3歳から5歳は「幼稚園・認可保育所・認定こども園」が最も多い結果となっている。【問15,16】

図表 0～2歳時の育児の状況(小5・中2相当年齢の児童の保護者)【単数回答】

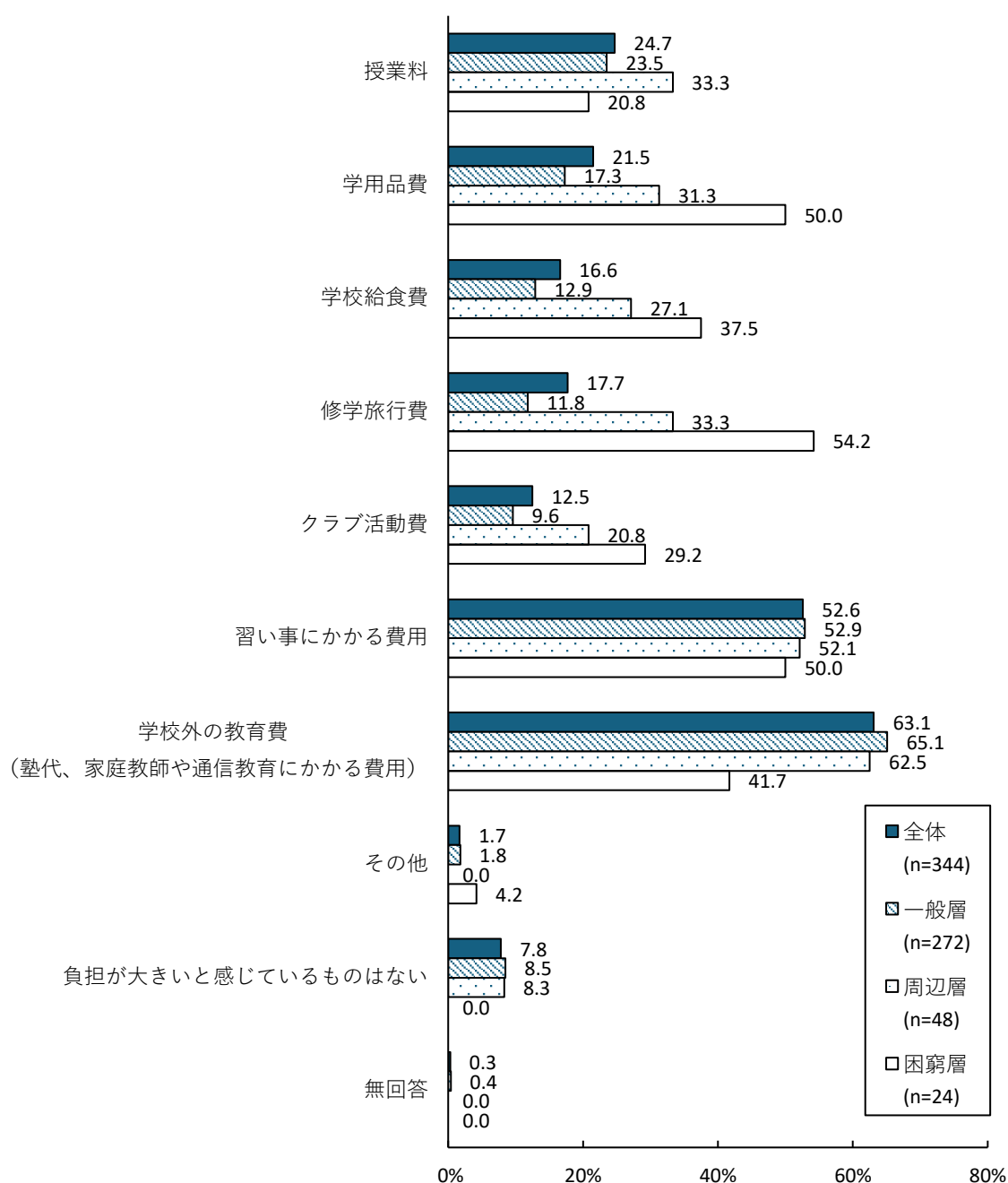


図表 3～5歳時の育児の状況(小5・中2相当年齢の児童の保護者)【単数回答】



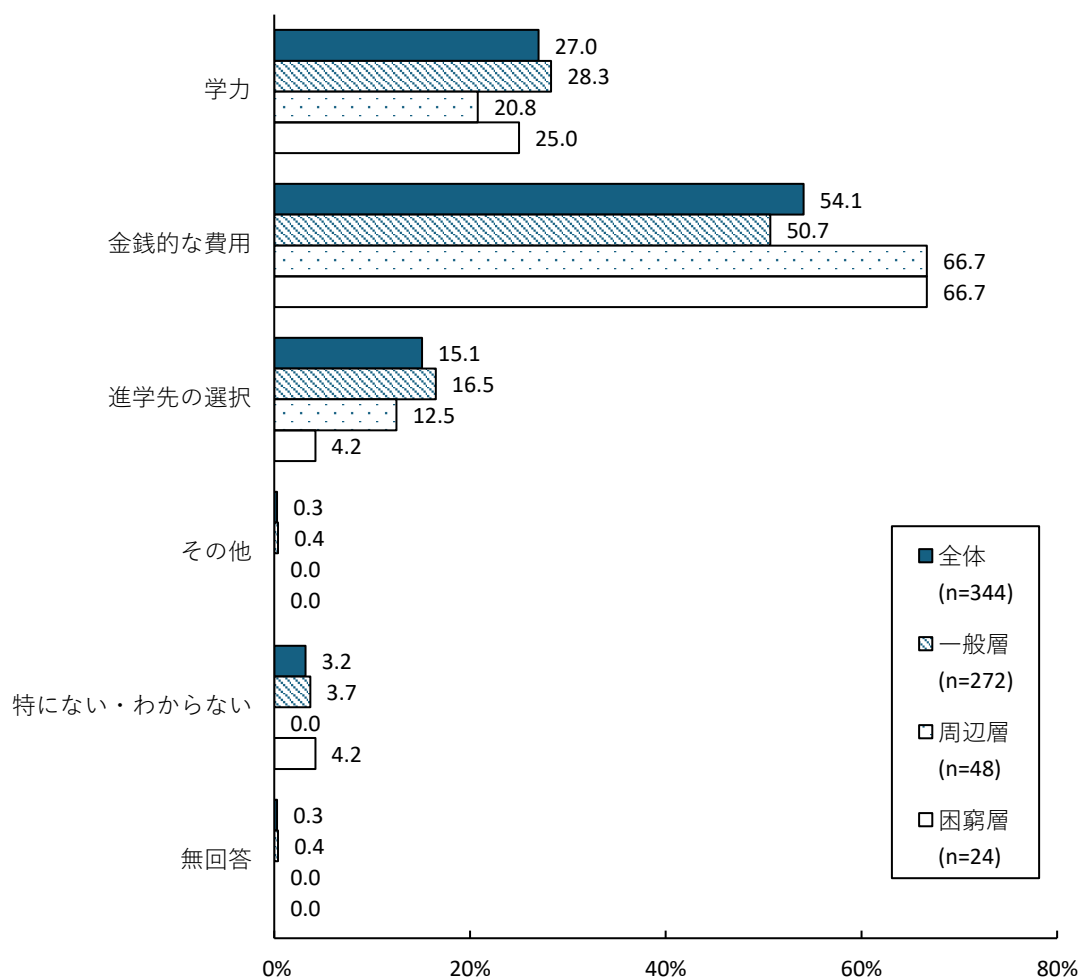
- ② 教育関連の支出で負担に感じるものでは、全体で「学校外の教育費(塾代、家庭教師や通信教育にかかる費用)」が63.1%と最も多く、次いで「習い事にかかる費用」が52.6%となっている。なお、生活困難度別にみると、「困窮層」の世帯では、他の世帯に比べて「学校外の教育費(塾代、家庭教師や通信教育にかかる費用)」が低く、「学用品費」、「学校給食費」、「修学旅行費」、「クラブ活動費」が高くなっている。【問19】

図表 教育関連の支出で負担に感じるもの
(小5・中2相当年齢の児童の保護者)【複数回答】



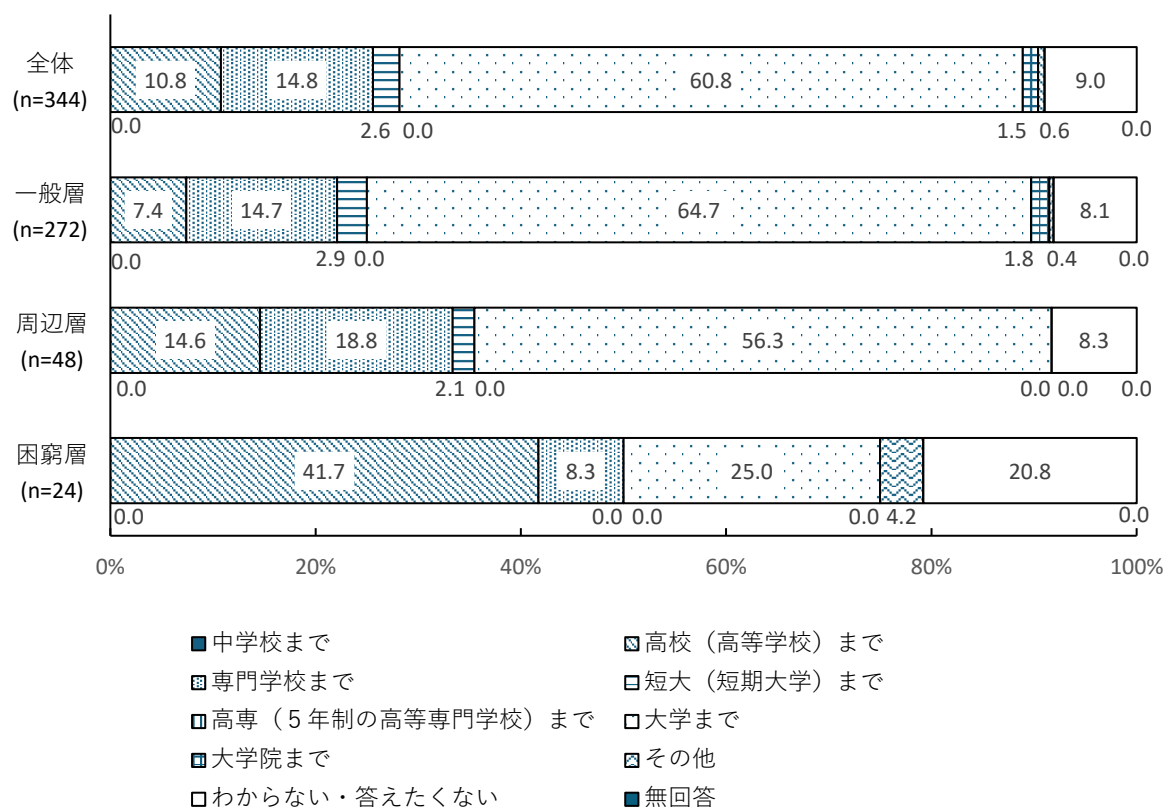
- ③ 子どもを進学させるにあたり最も心配なことは、いずれの生活困難度でも「金銭的な費用」が最も多く、次いで「学力」、「進学先の選択」となっている。なお、生活困難度別にみると、「周辺層」及び「困窮層」の世帯では、「一般層」の世帯と比較して、「金銭的な費用」の割合が高い状況であった。【問20】

図表 子どもを進学させるにあたり最も心配なこと
(小5・中2相当年齢の児童)【単数回答】



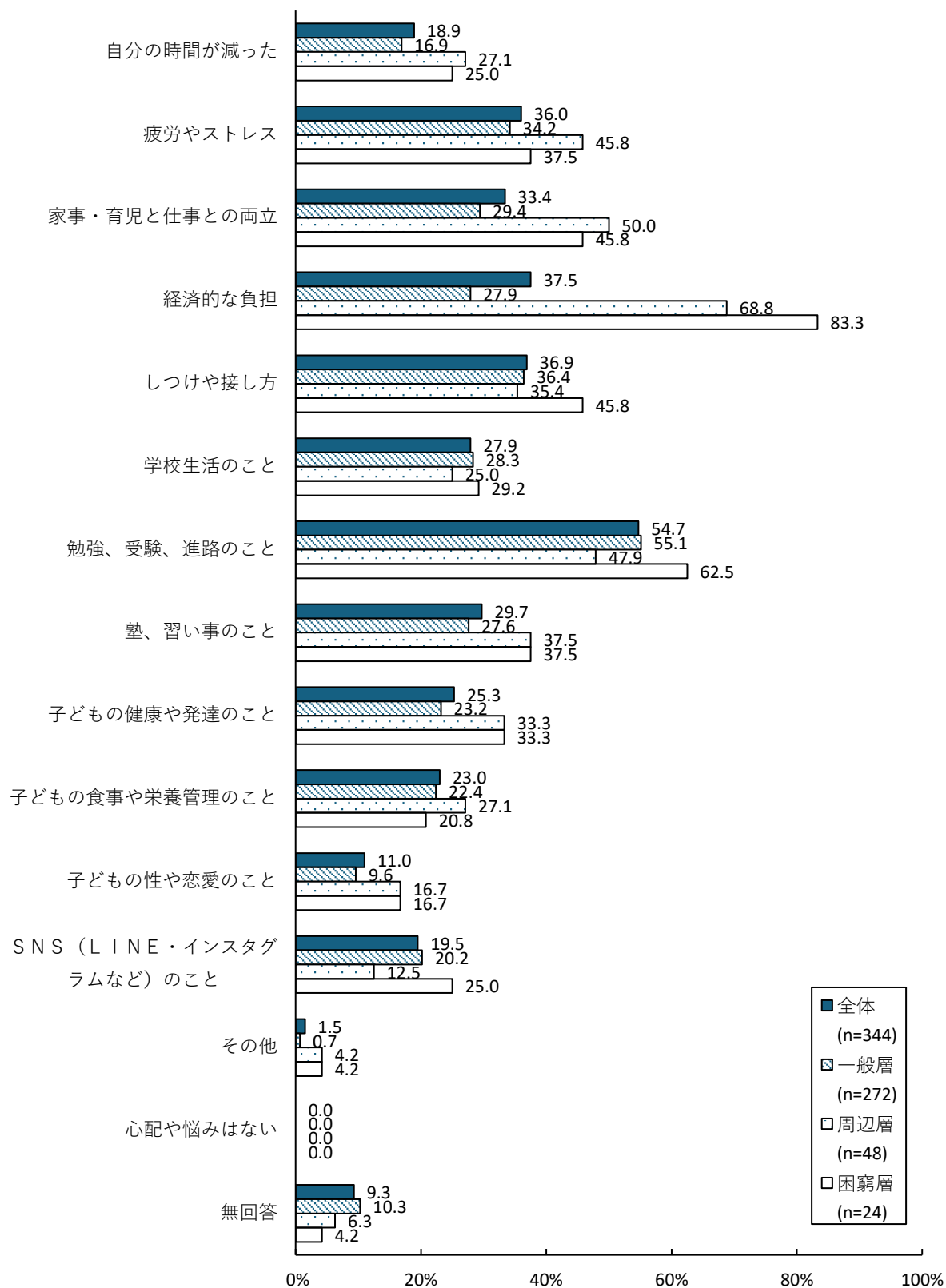
- ④ 子どもは将来どの段階まで進学すると思うかとの問いに対しては、全体では「大学まで」が60.8%と最も多く、次いで「専門学校まで」が14.8%、「高校(高等学校)まで」が10.8%であった。生活困難度別にみると、「困窮層」の世帯は、他の世帯に比べて「大学まで」、「専門学校まで」の割合が低く、「高校(高等学校)まで」が高くなっている。【問17】

図表 子どもの進学先(小5・中2相当年齢の児童の保護者)【単数回答】



- ⑤ 子育てに関する心配や悩みについては、全体では「勉強、受験、進路のこと」が54.7%と最も多く、次いで「経済的な負担」が37.5%、「しつけや接し方」が36.9%、「疲労やストレス」が36.0%であった。【問41】

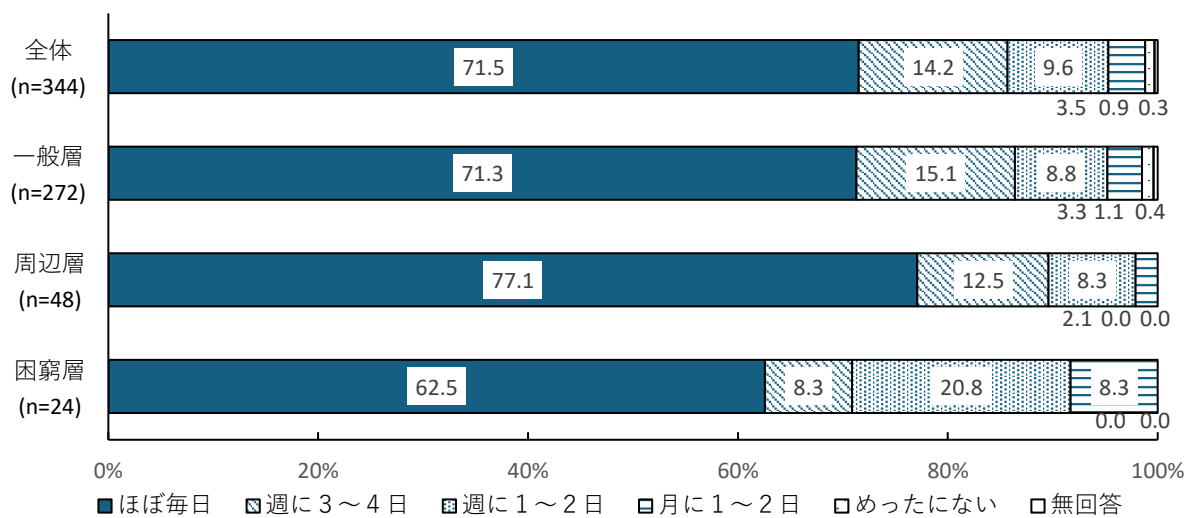
図表 子育てに関する心配や悩み(小5・中2相当年齢の児童の保護者)【複数回答】



(4)家族とのかかわり等について

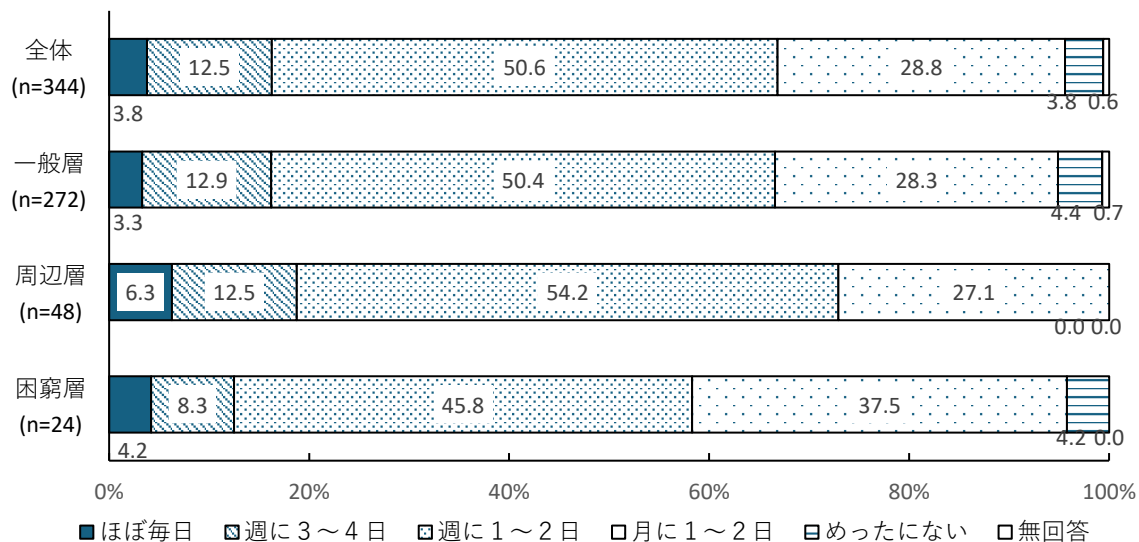
- ① 子どもと学校生活の話をする頻度については、「ほぼ毎日」が71.5%と最も多かった。生活困難度別にみると、「困窮層」の世帯が他の世帯と比較して、話す頻度が低い傾向にある。【問24(5)】

図表 子どもと学校生活の話をする頻度
(小5・中2相当年齢の児童の保護者)【単数回答】



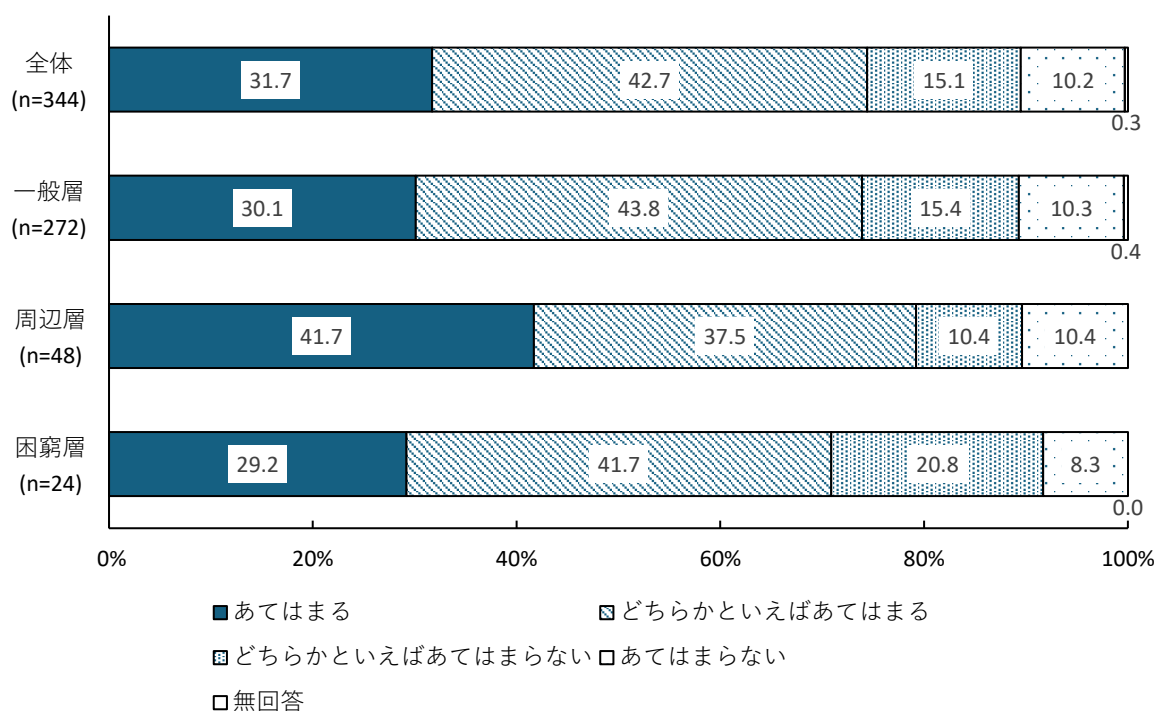
- ② 子どもと一緒に外出する頻度については、全体では「週に1~2日」が50.6%と最も多く、次いで「月に1~2日」が28.8%、「週に3~4日」が12.5%となっている。生活困難度別にみると、「困窮層」の世帯が他の世帯と比較して、外出する頻度が低い傾向にある。【問24(10)】

図表 子どもと一緒に外出する頻度(小5・中2相当年齢の児童の保護者)【単数回答】



- ③ 子どものテレビ・ゲーム・インターネットの利用についてルールを決めているかとの問いに対しては、全体では、「あてはまる」及び「どちらかといえばあてはまる」を合わせた割合が 74.4%、「どちらかといえばあてはまらない」が 15.1%、「あてはまらない」が 10.5%であった。【問25】

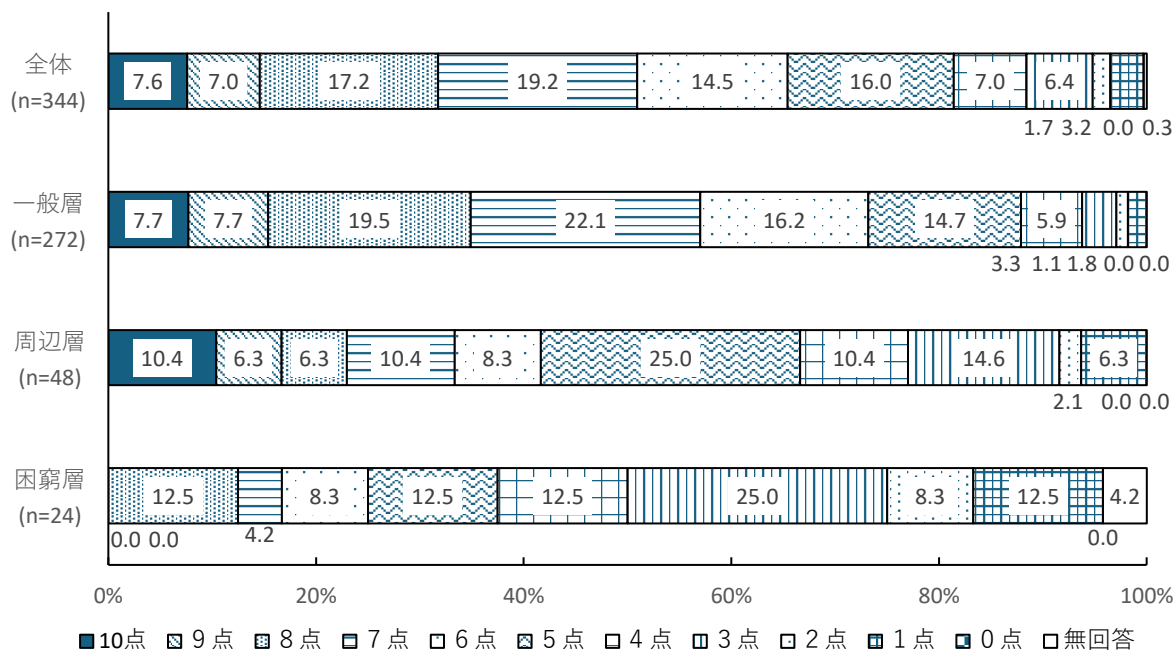
図表 子どものテレビ・ゲーム・インターネットの利用についてルールを決めているか
(小5・中2相当年齢の児童の保護者)【単数回答】



(5) 幸福感・困ったとき等について

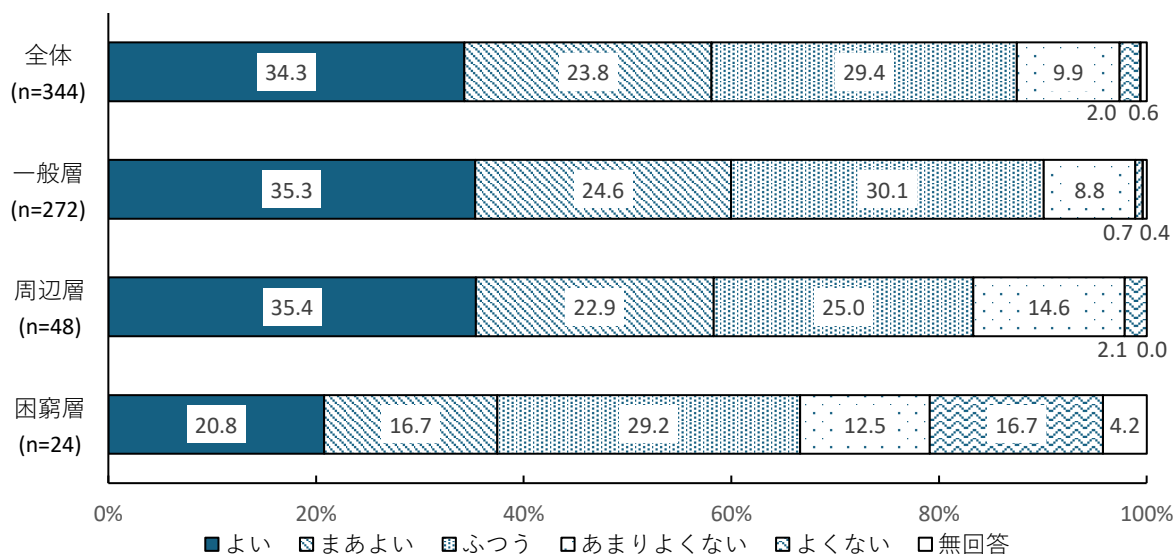
- ① 現在の生活の満足度については、全体では、「7点」が19.2%と最も多く、次いで「8点」、「5点」、「6点」の順であった。「6点」以上を選択して回答した割合は65.5%となっている。【問37】

図表 現在の生活の満足度(小5・中2相当年齢の児童の保護者)【単数回答】



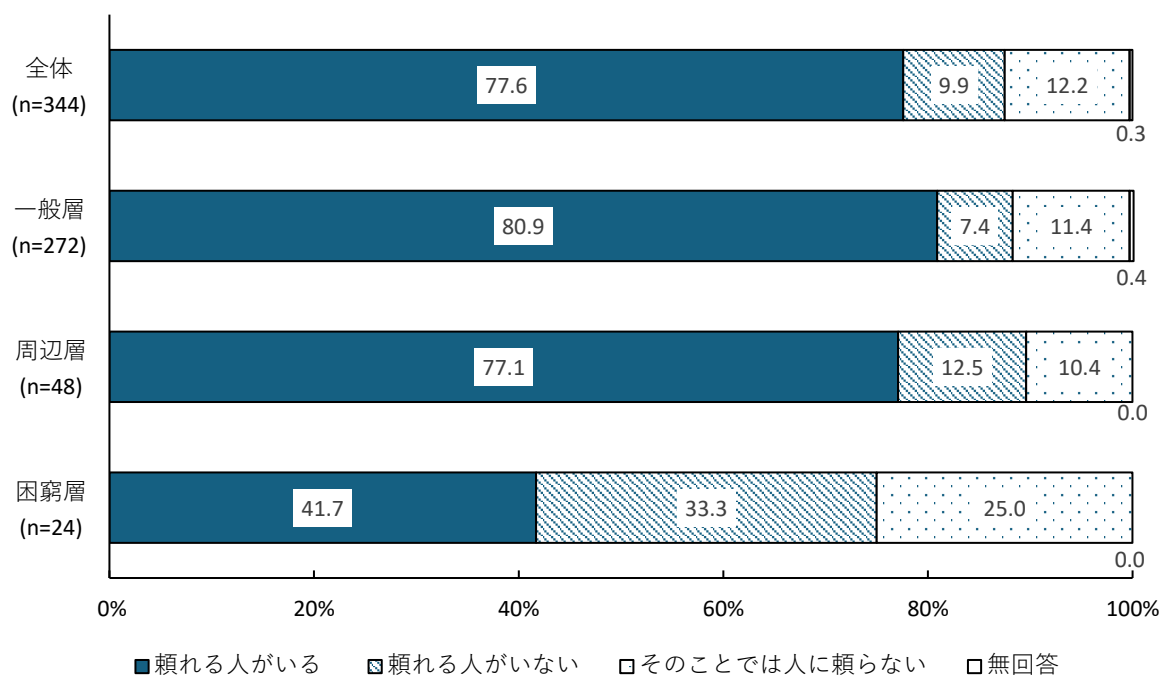
- ② 健康状態については、「よい」と「まあよい」を合わせた割合が58.1%、「ふつう」が29.4%、「あまりよくない」が9.9%となっている。【問38】

図表 現在の健康状態(小5・中2相当年齢の児童の保護者)【単数回答】

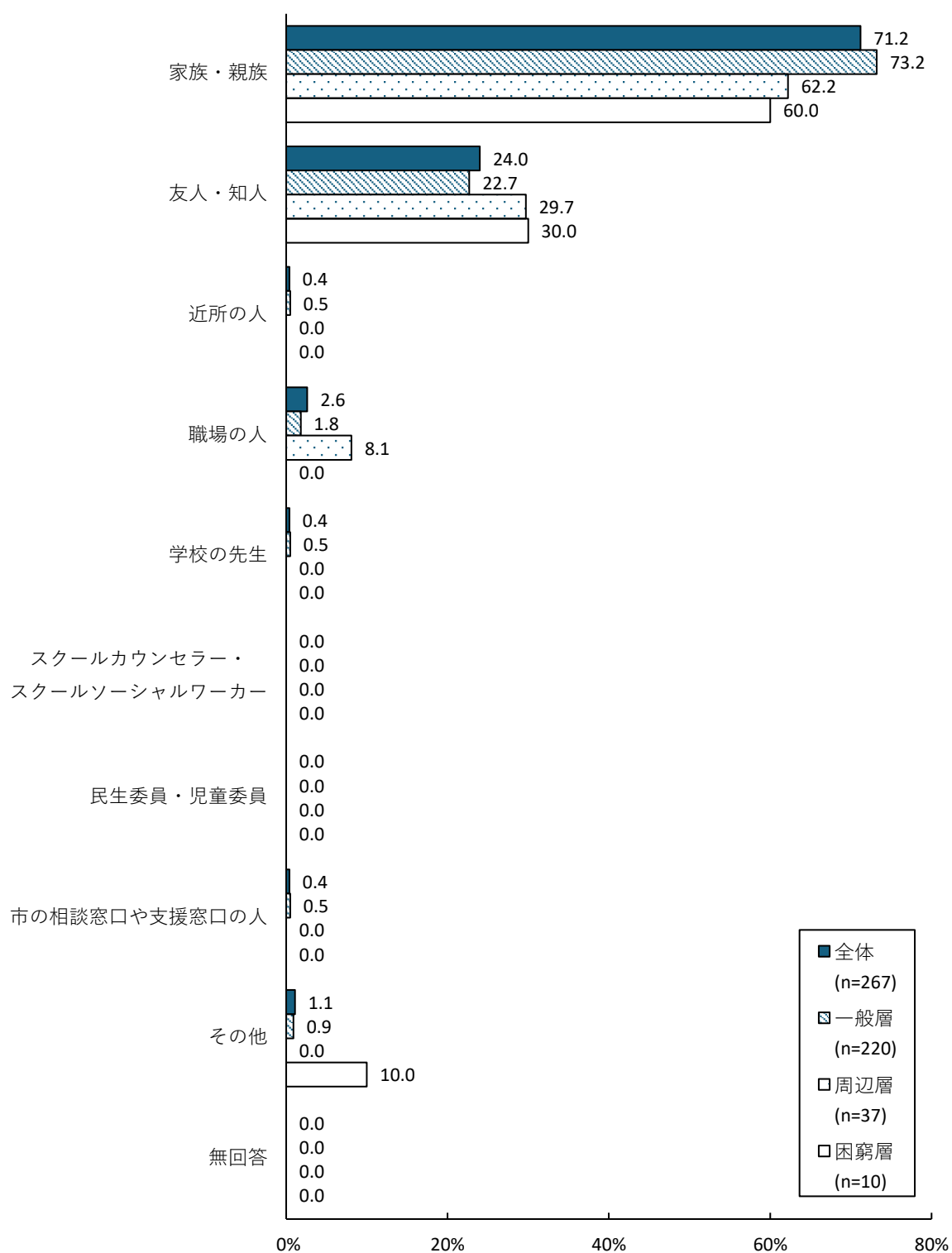


- ③ 「子育てに関する相談について、頼れる人がいるか」の問いに対しては、「頼れる人がいる」が 77.6%、「そのことでは人に頼らない」が 12.2%、「頼れる人がいない」が 9.9%となっている。頼れる人については、全体では、「家族・親族」が 71.2%、「友人・知人」が 24%となっている。【問42(1),問43(1)】

図表 子育てに関する相談相手の有無(小5・中2相当年齢の児童の保護者)【単数回答】



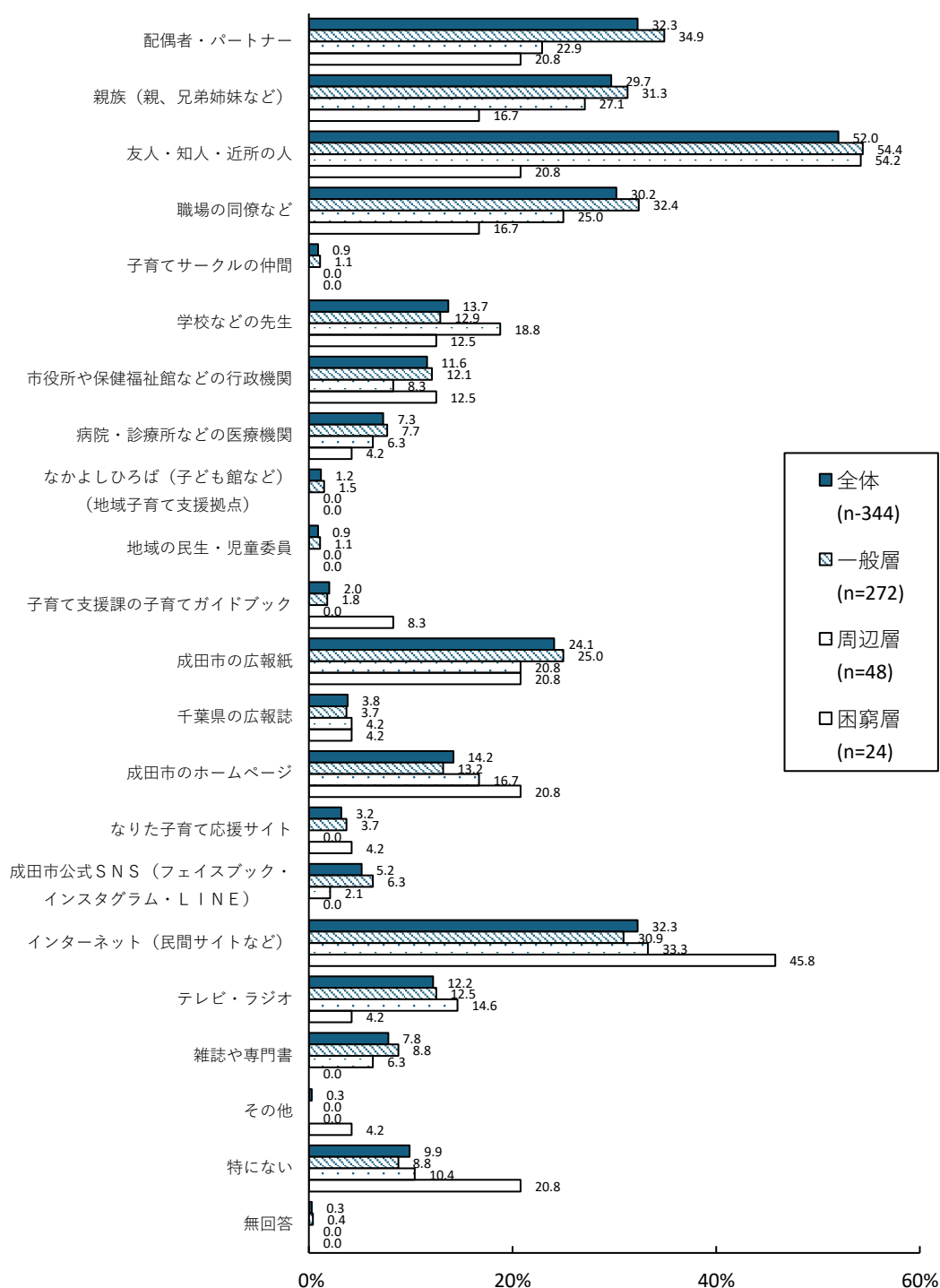
図表 子育てに関する相談相手(小5・中2相当年齢の児童の保護者)【単数回答】



(6)利用できるサービス等について

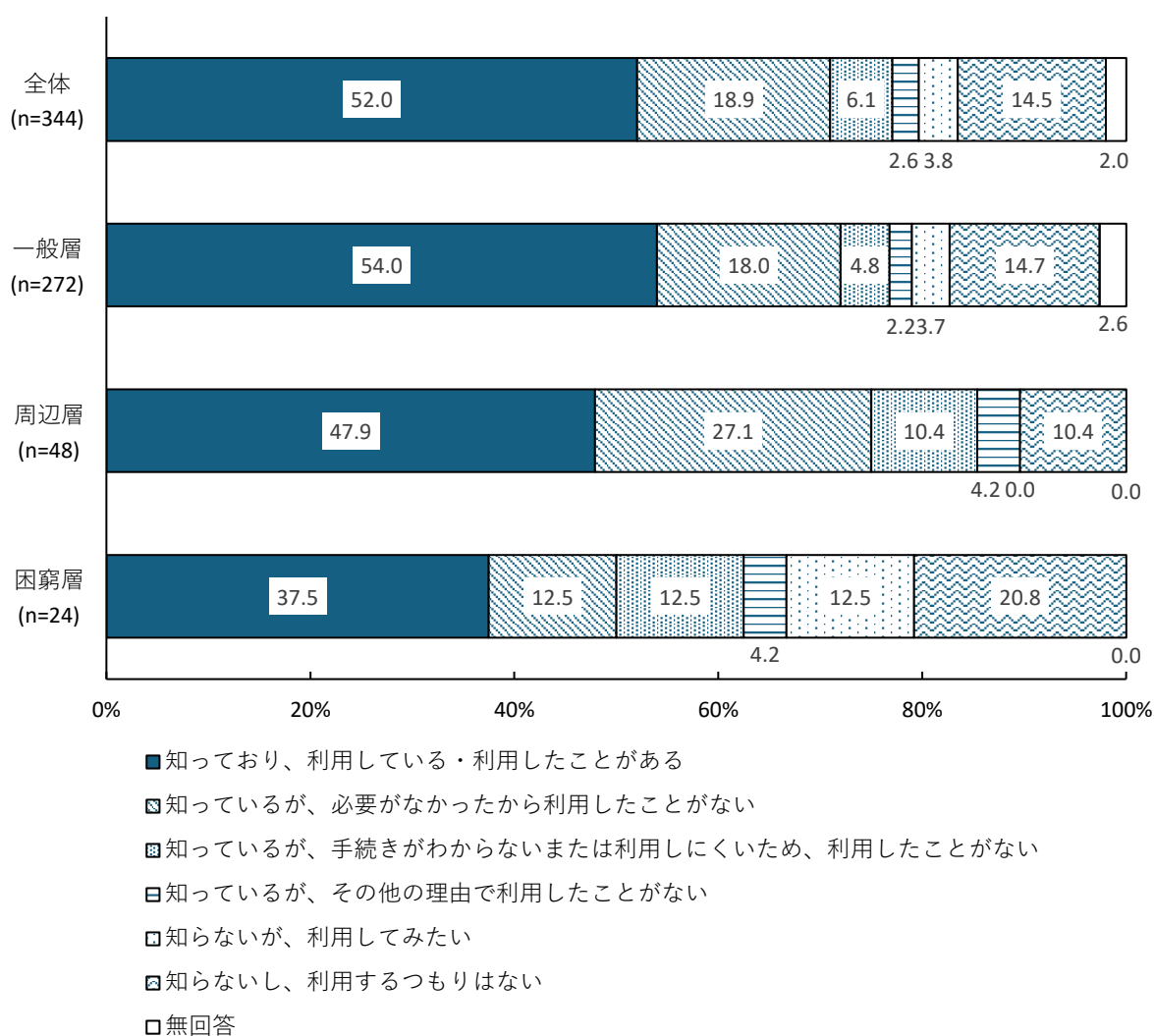
- ① 生活や子育てに関する支援の情報をどこから得ているかについては、全体では、「友人・知人・近所の人」が52.0%と最も多く、次いで「配偶者・パートナー」、「インターネット(民間サイトなど)」がそれぞれ32.3%となっている。【問44】

図表 生活や子育てに関する支援の情報入手先
(小5・中2相当年齢の児童の保護者)【単数回答】



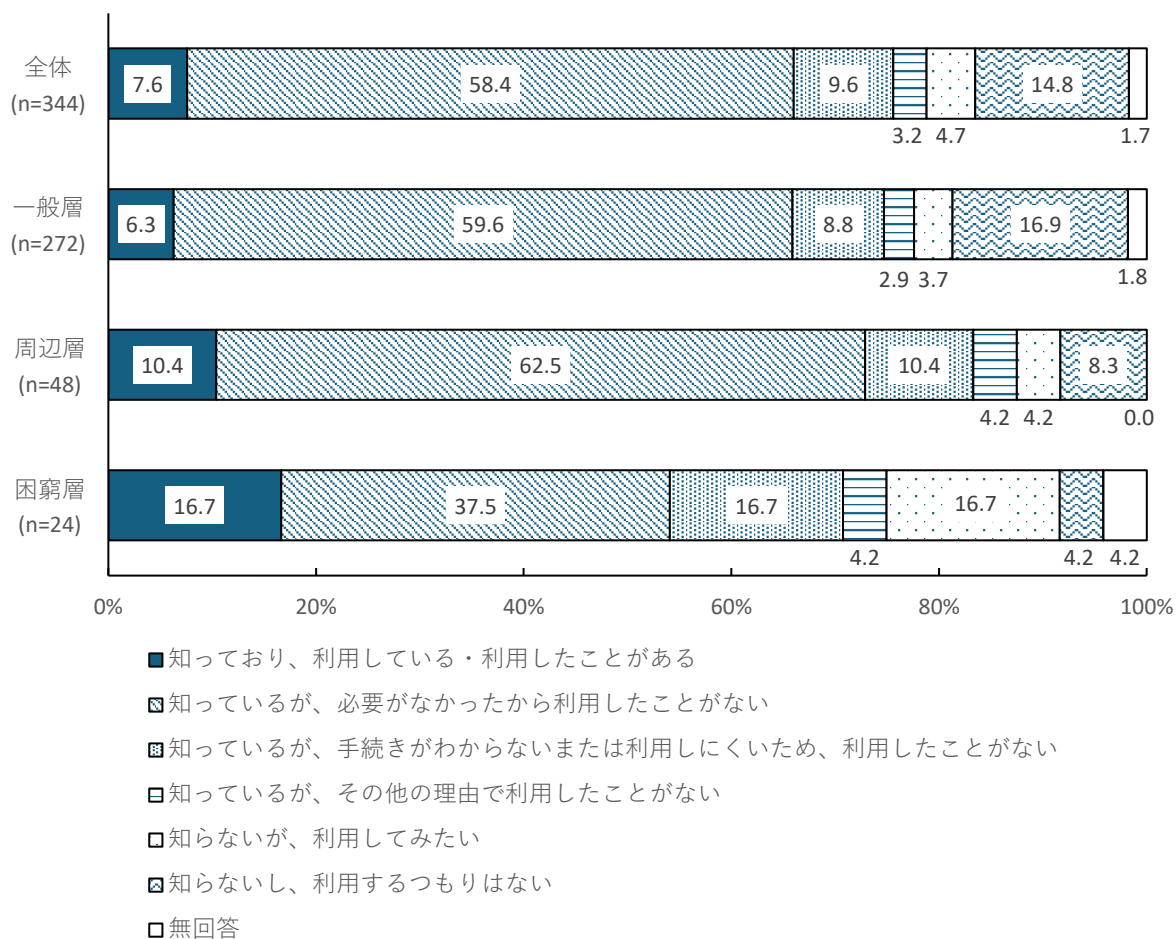
- ② 地域子育て支援拠点(なかよしひろば)については、全体では、「知っており、利用している、利用したことがある」が 52.0%、「知っているが、必要がなかったから利用したことがない」が 18.9%、「知らないし、利用するつもりはない」が 14.5%であった。
【問45(9)】

図表 地域子育て支援拠点(なかよしひろば)の利用状況
(小5・中2相当年齢の児童の保護者)【単数回答】



- ③ 病児保育については、全体では「知っており、利用している、利用したことがある」が7.6%、「知っているが、必要がなかったから利用したことがない」が58.4%、「知らないし、利用するつもりはない」が14.8%であった。【問45(10)】

図表 病児保育の利用状況(小5・中2相当年齢の児童の保護者)【単数回答】



- ④ 一時保育については、全体では、「知っており、利用している、利用したことがある」が26.2%、「知っているが、必要がなかったから利用したことがない」が47.7%、「知らないし、利用するつもりはない」が14.2%であった。【問45(12)】

図表 一時保育の利用状況(小5・中2相当年齢の児童の保護者)【単数回答】

